

エコアクション21

環境経営レポート



令和 6 年度 《令和6年4月1日～令和7年3月31日》



発行年月日 令和7年6月27日



宮田建設株式会社

目 次



- 0. 環境経営方針
- 1. 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 環境経営システム組織図・・・・・・・・・・ 2
- 3. 基準年度の環境負荷と環境目標・・・・ 3
- 4. 環境活動計画の主要内容・・・・・・・・・・ 4
- 5. 環境活動取組結果の評価・・・・・・・・・・ 5～8
 - (1) 目標達成状況 評価 5-1 5-2
 - (2) 年度別推移 6-1 6-2
 - (3) 売上げとの比較推移 7-1 7-2
 - (4) 削減による経済効果 8
- 6. 次年度の活動計画の内容・・・・・・・・・・ 9
 - (1) 二酸化炭素の排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 総排水量
 - (4) 省資源化・大気汚染排出の削減
 - (5) 建設騒音・振動の発生防止
 - (6) 建設現場地域との協調
- 7. 環境関連法規等の遵守状況・・・・・・・・ 10
- 8. トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 9. 代表者によるコメント・・・・・・・・・・ 11

環境方針

◎基本理念

「建物を建てる」ということの意味を私たちは日々考え続けなければなりません。建物を建てる時、私たちはたくさんの資源を使います。それと同様に、たくさんの人が関わります。

私たちは「建設」という業務を通じて自然との共生を目指す事を使命とし、建設材料や副資材等のグリーン購入に取り組みます。

ロゴマークの由来

宮田建設では、会社のスローガンをロゴマークとして表しています。

それぞれの色・形には意味があり、それぞれが組み合わさることで会社のスローガンである「人と自然との共生」を表現しました。



（環境保全への行動指針）

私たちは、建築設計施工を通じ、省エネ・省資源に配慮した提案や活動を致します。

1 具体的に次のことに取り組みます。

- *CO2削減効果の高い建物の推進。
(ZEH・ZEB・太陽光発電の提案)
- *長寿命建築の推進。
(既存建物の調査・診断・改修工事の提案)
- *産業廃棄物の削減はもとより分別を徹底してリサイクルを推進します。
- *グリーン購入の推進。
- *水や電気の使用削減・省エネ運転等の使用エネルギー削減に努めます。
- *IT活用等によるコピー・プリンター用紙の削減。

これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、環境経営の継続的な改善に努めます。

2 環境関連法規を遵守し、環境保全のレベル向上に努めます。

3 環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

制定日 平成22年2月8日

改訂日 平成23年5月18日

改訂日 令和6年5月30日

宮田建設株式会社

代表取締役 横井 成昭

1. 事業の概要

(1) 事業所及び代表者名
 宮田建設株式会社
 代表取締役 横井 成昭



(2) 所在地
 〒807-0831
 北九州市八幡西区則松四丁目3-10

〒870-0853
 大分市羽屋新町二丁目1-8

(3) 法人設立年月日
 昭和46年7月23日

(4) 環境関係の責任者及び担当者 連絡先
 環境管理責任者 代表取締役副社長 横井 久美
 環境事務局 総務部 課長 西村 由紀
 連絡先 (TEL) (093)602-8818
 (FAX) (093)603-3366
<https://www.miyata-kk.com/>
 e-mail hello@miyata-kk.com

(5) 主な事業内容
 ＊＊＊福岡県知事 (特-4)第32172号
 建築工事業一式 大工工事業
 土木工事業一式 建具工事業
 水道施設工事業 内装仕上工事業
 とび・土工工事業 塗装工事業
 防水工事業 解体工事業
 ＊＊＊一級建築士事務所登録 第1-20409号

(6) 事業の規模

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (R1)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
売上 (百万円/年)	1,751	1,963	2,962	2,549	2,003	2,548	1,958	1,829	1,828	2,165	1,776	1,972	1,855	1,727
従業員 (人)	18	24	23	22	22	23	24	23	25	23	22	22	20	21
床面積 (㎡)	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338

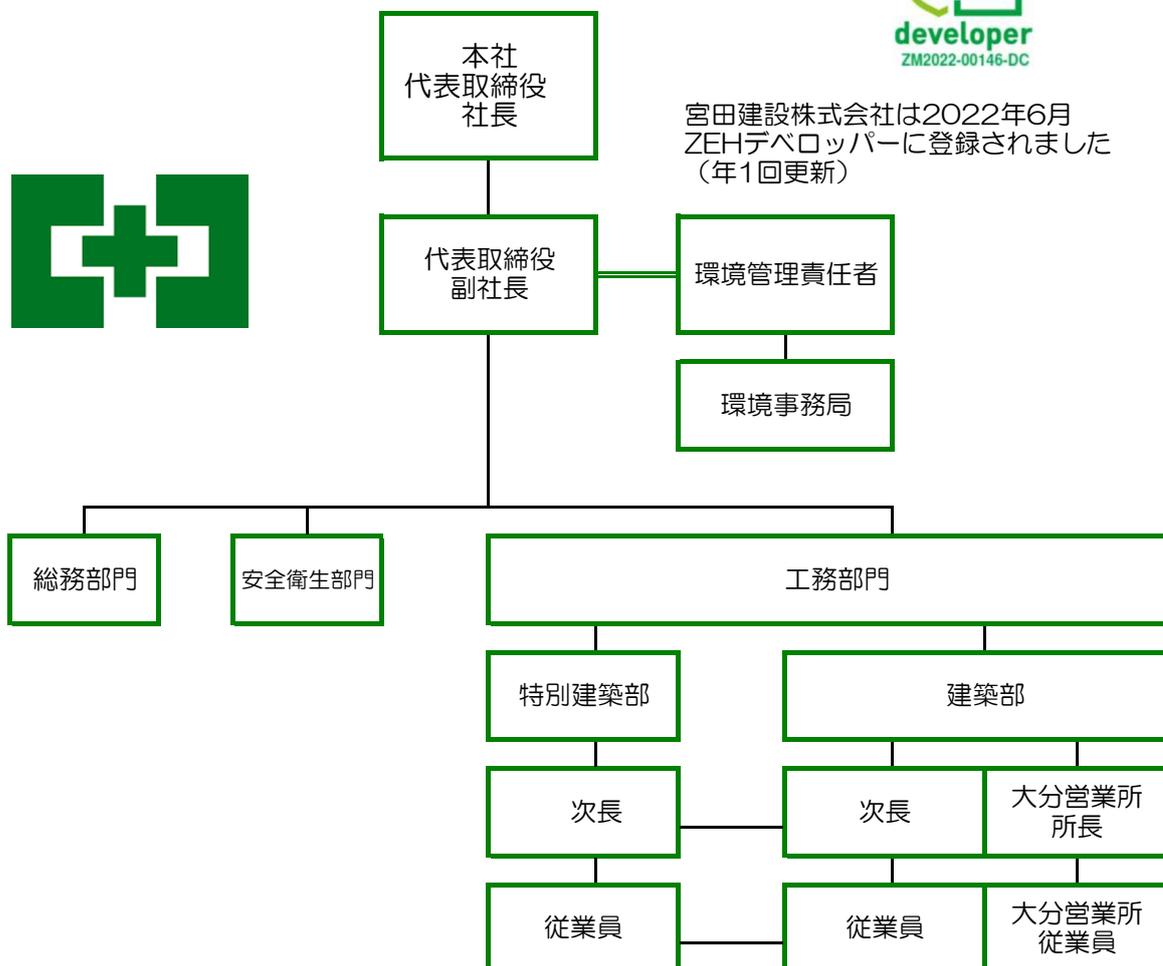
当社の事業年度 4月1日～翌年3月31日
 ※H24年12月1日に㈱筑前工務店と合併、H24年度の数值は合併後4か月を含んだ値を示す。
 力所

2. 環境経営システム組織図

ゼロエネルギーで、暮らそう。



宮田建設株式会社は2022年6月
ZEHデベロッパーに登録されました
(年1回更新)



* 認証登録範囲は、本社・営業所及び建築工事業一式、土木工事業一式、水道施設工事業、とび・土工工事業、防水工事業、解体工事業です。

代表取締役社長	全体統括、環境方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
代表取締役副社長	全体の把握/環境管理責任者、環境経営システムを構築、運用し、その評価状況を社長に報告する
EA21委員会	1ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
総務部(課長)	電力、水消費量の管理
工務部(次長)	廃棄物の排出量管理、リサイクル率管理
取締役	廃棄物の排出量管理、リサイクル率管理
総務部	車燃料(ガソリン、軽油)、灯油消費量管理
工務部	建設現場のエネルギー削減・リサイクル率管理、環境景観管理

3. 基準年度の環境負荷と環境目標

《本社・営業所》

環境目標	単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	R6年度目標	R6年度実績	R7年度		R8年度目標 (前年比)
								前年比	目標値	
二酸化炭素排出量	ton-CO ₂	67.2	64.8	67.8	60.5	60.4	61.5	-0.1%	61.4	-0.1%
電気使用量	千kWh	26.6	28.0	30.5	27.9	27.8	28.3	-0.1%	28.3	-0.1%
灯油使用量	kℓ	1.1	0.6	0.5	0.8	0.8	0.9	-0.1%	0.9	-0.1%
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	12.9	11.2	13.6	12.1	12.1	11.7	-0.1%	11.7	-0.1%
軽油使用量(現場含む)	kℓ	9.0	10.0	8.8	7.4	7.4	8.0	-0.1%	8.0	-0.1%
液化石油ガス	kg	8.8	9.3	7.5	8.7	8.7	12.0	-0.1%	12.0	-0.1%
紙くず(一般)	ton	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-0.1%	0.00	-0.1%
総排水量(給水量)	m ³	115.0	120.0	119.5	106.0	105.9	111.0	-0.1%	110.9	-0.1%
資源投入の削減 (コピー用紙)	千円	120.9	41.0	1.2	51.3	51.3	1.9	-0.1%	1.9	-0.1%

※上記の目標数値は、大分営業所も含む。

※R6年度の目標数値は、R5年度実績をベースにしています。(排出係数0.453→0.406へ)

※R7年度の目標数値は、R6年度実績をベースにしています。

※電気の二酸化炭素排出係数は、2023年九州電力0.406(kg-CO₂/kWh)を用いた。

(R5年度以前もこの係数で排出量の見直しを行った)

《建設現場》

令和7年度環境目標

No.	目標項目	活動計画
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制。
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行う。
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH/ZEH-M/ZEB導入の提案を行う。
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する	現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工する。
5	地域との協調ならびに景観保存	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持する。
6	水使用量の削減	パルプの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車両タイヤの泥落としは現場内でこまめに行う。
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する。

* 建設現場については、年度によって受注量が変わるので、数値目標でなく、環境活動を目標とします。

4. 環境活動計画の主要内容

● 二酸化炭素排出量の削減

- (1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め実行する
 - ② 昼休み・残業時の不要な照明の消灯
 - ③ エアコン不要季節の時の動力停止
- (2) 灯油の使用量の削減
 - ① ストープの効率使用（重ね着等の励行）
- (3) ガソリン・軽油の使用量の削減
 - ① アイドリングストップの励行
 - ② 不要な荷物は積まない
 - ③ 加速度の少ない運転
- (4) 液化石油ガスの削減
 - ① 給湯器等の効率使用
- (5) 廃プラ焼却「ゼロ」の維持
 - ① 使い捨て容器入りの弁当等の購入禁止



● 廃棄物排出量の削減

- (1) 裏紙使用・ペーパーレス化の推進により、紙使用量の削減
- (2) 再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する

● 総排水量の削減

- (1) 水使用量の削減
 - ① 小便使用時は小で流す
 - ② 手洗い、洗い物においての節水
 - ③ ハルブの調整により水量及び水圧の調整を図る
 - ④ 車両タイヤの泥落としを現場内で行う



● 商品の省資源化

- (1) 建築物の長寿命化・省エネ商品の推進と提案を行う

● 大気汚染排出の削減

- (1) 設計時にZEH/ZEH-M/ZEBの導入の提案を行う



● 建設騒音・振動の発生防止

- (1) 騒音、振動による苦情の発生をゼロに維持する
 - ① 低騒音型建設機材の検討採用
 - ② 作業工程の工夫など影響の最小限化

● 建設現場地域との協調

- (1) 建設現場の整理整頓
- (2) 地域住民との環境コミュニケーション



5. 環境活動取組結果の評価

(1) 目標達成状況

《本社・営業所》

環境目標	単位	R5年度実績	R6年度目標		R6年度実績	目標達成の判定
			R5年度比	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	ton-CO2	60.5	-0.1%	60.4	61.5	×
電気使用量	千kWh	27.9	-0.1%	27.8	28.3	×
灯油使用量(現場含む)	kℓ	0.8	-0.1%	0.8	0.9	×
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	12.1	-0.1%	12.1	11.7	○
軽油使用量	kℓ	7.4	-0.1%	7.4	8.0	×
液化石油ガス	kg	8.7	-0.1%	8.7	12.0	×
紙くず(事務所)	ton	0.0	-0.1%	0.00	0.0	○
総排水量(給水量)	m ³	106.0	-0.1%	105.9	111.0	×
資源投入の削減(コピー用紙)	千円	51.3	-0.1%	51.3	1.9	○

*電気の二酸化炭素排出係数は、2023年度 九州電力0.406(kg-CO2/kWh)を用いた。

《建設現場》

No.	目標項目	取組結果の評価	目標達成の判定
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制を行った。	○
		*R6年度安全大会の景品を第2弾となる『オリジナルマイボトル』とした。	
		R6年度 二酸化炭素排出量 0.239ton-CO ₂ (仮設電気使用量590kWh)	
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行った。	○
		*長期優良・ZEH等による地域ブランド住宅事業の補助金により、受注につながっている。	
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH・ZEH-M(「ゼッチ」ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス、マンション)導入の提案を行っている。	○
		*提案により、9F建て賃貸ZEH-Mを受注、R7.10月完成となります。	
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する	現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工した。	○
		*20tラフタークレーン等、低騒音・低振動を採用した。	
5	地域との協調ならびに景観保存	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持した。	○
		*月一回のパトロールにより、整理整頓の強化がよくなっている。	
6	水使用量の削減	バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車両タイヤの泥落としを現場内で、こまめに行った。	○
		*「節水」「バルブ取付」と表示することにより、より一層水の使用を気を付けるようになった。水は井戸水使用。	
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底した。	○
		*石膏ボード専用の分別のためのコンテナを設置した。R6年度 排出量7.95t	

※当社、令和6年度 本社・営業所・建設現場の二酸化炭素排出量の実績は61.739ton-CO₂となりました。

(1) 目標達成評価

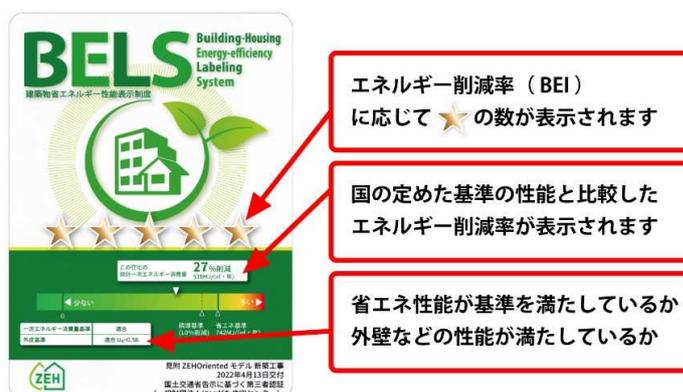
《本社・営業所》

*前頁より（目標達成項目）



EA21環境活動を取り組んで15年、令和6年度は、ガソリンの使用量と紙くず排出量の2項目以外は、目標達成が出来ていませんが、その要因としては、環境目標の基準設定を、既に削減できている前年度の数値より運用している事によるものです。

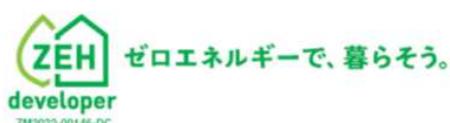
又、上記のように削減目標は達成できていませんが、結果で一喜一憂するものでなく、生産性向上、会社評価の向上、及び二酸化炭素排出量削減などの貢献はできています。



宮田建設株式会社は2016年にZEHビルダー（戸建て）、2022年にZEHデベロッパー（集合住宅）に登録されています。

ZEHに係る2030年の政策目標において集合住宅が位置付けられたことを受け、自社所有の福岡県では初となる、中高層ZEH賃貸マンションがR6年2月に完成し、中高層ZEH賃貸マンションとして施工実績をモデルとする事で、現在、福岡市においてR7、10月完成となるZEH-Mを受注施工中です。

今後も私たち地場企業がZEHの価値を明示することで、建築主や入居者が、将来分譲でも賃貸でも住み替えの優先順位となるよう、取組普及に繋げていきます。



(2) 年度別推移

1) 電力及び化石燃料

① 使用量

項目	単位	使用量				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
購入電力	千kWh	26.6	28.0	30.5	27.9	28.3
灯油	kℓ	1.1	0.6	0.5	0.8	0.9
ガソリン	kℓ	12.9	11.2	13.6	12.1	11.7
軽油	kℓ	9.0	10.0	8.8	7.4	8.0
液化石油ガス	kg	8.8	9.3	7.5	8.7	12.0

CO2排出係数	
係数	単位
0.406	(kg-CO2/kWh)
2.49	(kg-CO2/ℓ)
2.32	(kg-CO2/ℓ)
2.58	(kg-CO2/ℓ)
3.00	(kg-CO2/kg)

注) 電力の排出係数は

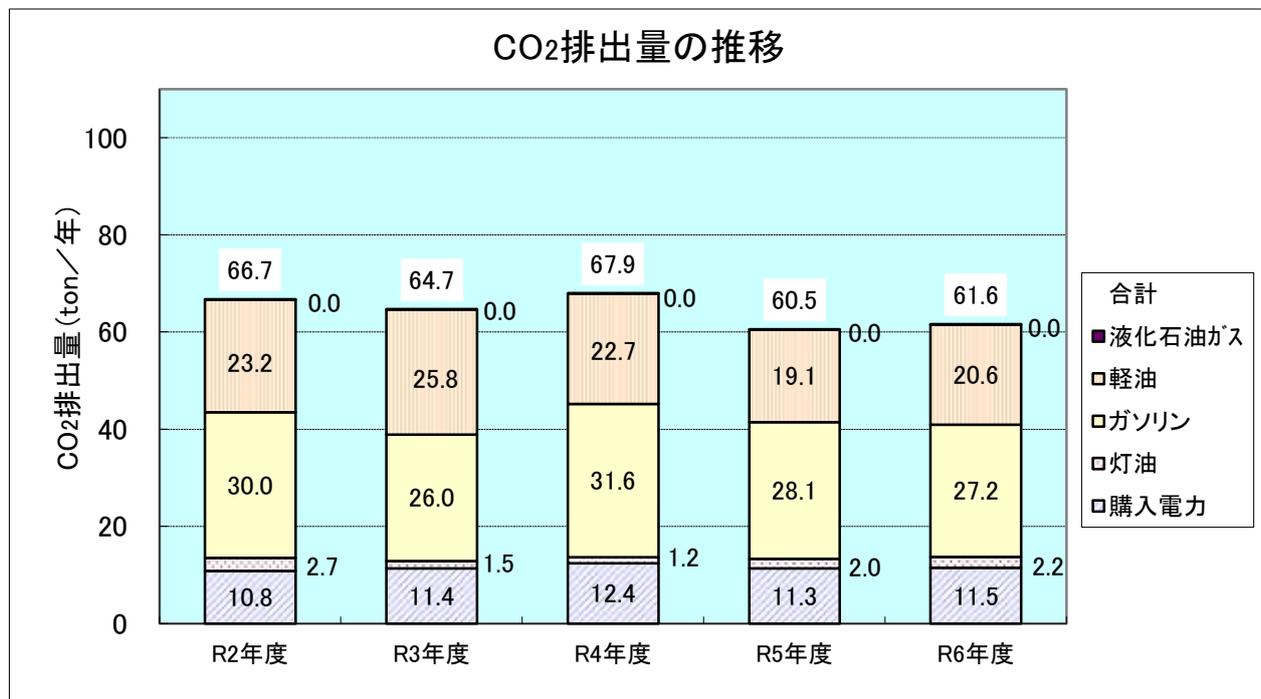
九州電力2023年度0.406 (kg-kWh)

項目	単位	CO2排出量(ton/年)				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
購入電力	ton/年	10.8	11.4	12.4	11.3	11.5
灯油	ton/年	2.7	1.5	1.2	2.0	2.2
ガソリン	ton/年	30.0	26.0	31.6	28.1	27.2
軽油	ton/年	23.2	25.8	22.7	19.1	20.6
液化石油ガス	ton/年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	ton/年	66.7	64.7	67.9	60.5	61.6

(取り組み開始前比H20年度) (72.5%) (70.3%) (73.8%) (65.8%) (66.9%)



CO2排出量の推移

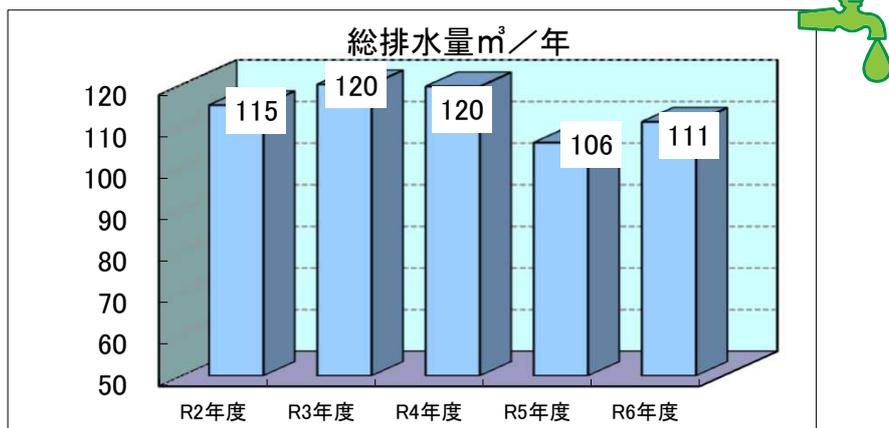


『※合計の数値は本社・営業所のみの数値です。』

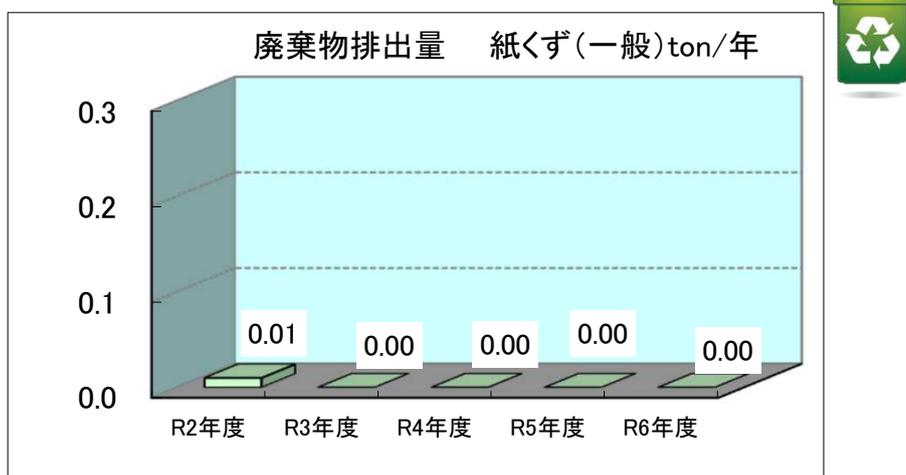


CO2排出の重点項目である電気・ガソリン・軽油の使用量の目標達成は、ガソリン使用量のみですが、数値的には、ほぼほぼ目標に近い数値となっています。

(2) 年度別推移 (つづき)



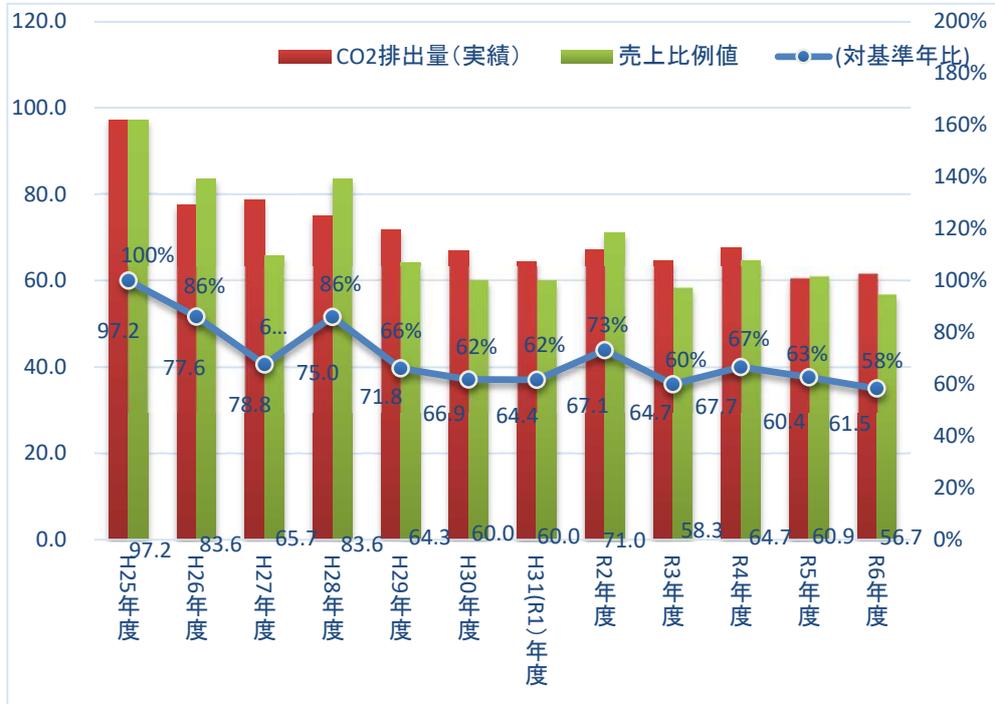
手洗い・うがいの徹底の中、今年度は目標の達成こそ出来てはいませんが、社員一人一人の心がけにより、節水意識が高く、使用量を最低限で抑えることが出来ています。



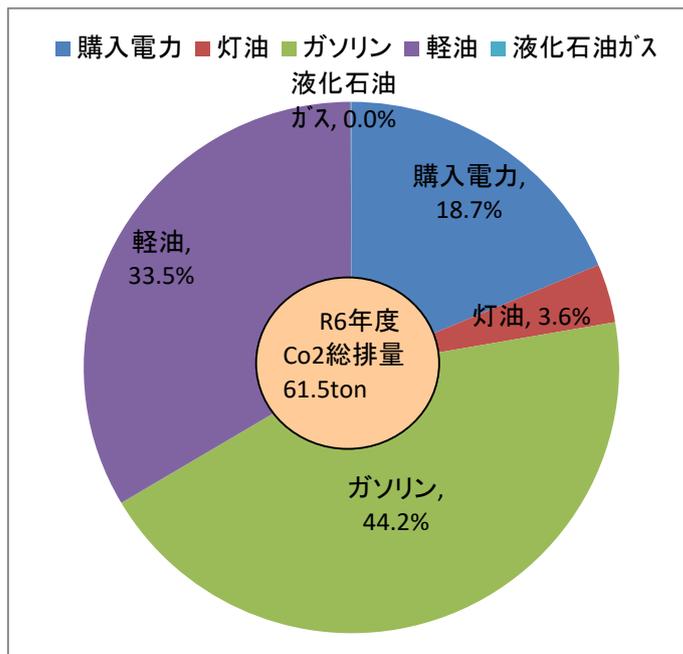
紙くずの排出量は例年、裏紙使用等で取り組み当初より継続して、大変良く出来ている。

(3)売上との比較推移

二酸化炭素排出量（本社・営業所）と売上げ



例年、受注増減の波がある中、各項目の数値はそれぞれ、よく抑えられている。



CO2排出量の95%以上を占める電気・ガソリン・軽油の使用量に関しては、今後も重点項目として燃費向上の努力を継続する。

(3) 売上との比較推移(つづき)



総排水量 (m³/年)

総排水量と売上げ



手洗い等徹底の中でも、各自の省エネ意識により、目標達成が出来ました。



紙くず排出量 (トン/年)

廃棄物排出量 紙くず(一般)と売上げ



裏紙使用は、例年、誰もが取り組みやすい項目である事から、継続して目標達成が出来ている。

(4) 削減による経済効果

【主要3品目の売上げ補正前後の比較】

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	R5年度 実績
売上げ	百万円	2,073	1,855
電気使用量	千kWh	46.8	27.9
削減量	千kWh		18.9
削減金額	千円/年		533
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.1
削減量	kℓ		11.2
削減金額	千円/年		1,698
軽油使用量	kℓ	15.0	7.4
削減量	kℓ		7.6
削減金額	千円/年		1,009

H22～R4 削減金額 累計
7,468
15,644
7,435

削減金額合計	千円/年	3,239
--------	------	-------

30,547

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	R5年度 実績
売上げ	百万円	2,073	1,855
電気使用量	千kWh	46.8	27.9
売上げ補正基準値	千kWh		41.9
削減量	千kWh		14.0
削減金額	千円/年		395
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.1
売上げ補正基準値	kℓ		20.8
削減量	kℓ		8.7
削減金額	千円/年		1,319
軽油使用量	kℓ	15.0	7.4
売上げ補正基準値	kℓ		13.4
削減量	kℓ		6.0
削減金額	千円/年		796

H22～R4 削減金額 累計
5,807
15,216
6,683

削減金額合計	千円/年	2,510
--------	------	-------

27,706

環境目標	単位	R6年度実績 補正前	環境目標	単位	R6年度実績 補正後
売上げ	百万円	1,727	売上げ	百万円	1,727
電気使用量	千kWh	28.3	電気使用量	千kWh	28.3
削減量	千kWh	18.5	売上げ補正基準値	千kWh	39.0
削減金額	千円/年	581	削減量	千kWh	10.7
ガソリン使用量	kℓ	11.7	削減金額	千円/年	336
削減量	kℓ	11.2	ガソリン使用量	kℓ	11.7
削減金額	千円/年	1,947	売上げ補正基準値	kℓ	19.4
軽油使用量	kℓ	7.9	削減量	kℓ	7.7
削減量	kℓ	7.1	削減金額	千円/年	1,338
削減金額	千円/年	1,053	軽油使用量	kℓ	7.9
			売上げ補正基準値	kℓ	12.5
			削減量	kℓ	4.6
			削減金額	千円/年	682
削減金額合計	千円/年	3,580			
			削減金額合計	千円/年	2,356

補正前
R5年度単価
28.2 円/kWh
151.6 円/ℓ
132.7 円/ℓ
運用開始H22年度～R5年度 累計
33,786 千円

補正後
R5年度単価
28.2 円/kWh
151.6 円/ℓ
132.7 円/ℓ
運用開始H22年度～R5年度 累計
30,216 千円

R6年度 単価
31.4 円/kWh
173.8 円/ℓ
148.3 円/ℓ
補正前
H22年度～R6年度 累計
37,367 千円
補正後
H22年度～R6年度 累計
32,572 千円

取り組み開始(H22年度)以降の主要3品目(電力、ガソリン、軽油)について削減の経済効果を集計した結果、売上げ補正前で毎年平均249万円、補正後217万円程度、効果を上げている。

6. 次年度の活動計画の内容

(1) 二酸化炭素の排出量の削減

当社の電気、ガソリン、軽油の使用排出量は、全体の97%近くを占めている中、令和6年度に関しましては、3大重点項目のうち、目標達成できたのは、ガソリン使用量のみとなりましたが、電気・軽油の使用量に関しても、ほぼ目標に近い数値まで削減ができています。環境負荷の低減に従業員全員が、意識を持ち取組み活動を行うことで次年度も二酸化炭素排出量削減への目標達成活動を続けていきます。



(2) 廃棄物排出量の削減

紙使用量の削減・再生紙使用率の向上・事務消耗品などのグリーン購入の推進・廃棄物リサイクルなどを推進し、省資源に取り組んでいます。又、社内会議でのプロジェクター活用、配布資料削減に加え、両面コピー・2in1印刷の徹底といった全社員の自発的削減の取組みを強化します。



(3) 総排水量

地球の2/3は水に覆われ、大量の水があるように見えますが、世界中では水不足が深刻化しています。この大量の水のうち、私たちが使える水の割合はわずか0.01%と言われていています。水資源は無限にあるものではなく、限りある資源であることを理解し節水に努めます。

(4) 省資源化・大気汚染排出の削減

経営課題であった共同住宅のZEH-M（ゼッチマンション）の完成により、今まで難しかったZEH-M提案が受入れてもらいやすくなりました。これを機に今後もSDGsの普及とともに、戸建て住宅と共に共同住宅のZEH化を普及し受注に繋げていきます。

(5) 建設騒音・振動の発生防止

近隣の生活環境を考え、低騒音の機械導入はもとより、休日の作業をしない等、工事計画や騒音対策について事前に周知し、理解と協力を求める。

(6) 建設現場地域との協調

作業、交通障害の防止等、気を付けることで、近隣の方が不安にならない様、現場でも施主・近隣・地域の方にわかるよう、工事の工夫をしています。



7. 環境関連法規等の遵守状況

(1) 環境関連法規違反、訴訟等の有無

環境関連法規（廃棄物処理法、建設リサイクル法、建築基準法、騒音規制法、振動規制法等）の遵守状況の評価を行った結果、環境関連法規等の逸脱はなく、順守している。尚、法的違反や訴訟・苦情について過去15年間ありません。

8. トピックス

TOPIC!

次世代へつながるライフスタイル
「省エネ」と「創エネ」でZEHに対応した集合住宅

ZEHに係る2030年の政策目標において、集合住宅が位置付けられたことを受け、自社所有のZEH-Mをモデルに受注につながっています。

宮田建設株式会社は、ZEHビルダー（戸建て）に続き、2024年も引き続きZEHデベロッパー（共同住宅）に登録されました。



ゼロエネルギーで、暮らそう。

地球に



災害時に



家計に



暮らす人に



環境配慮

安全・安心

経済性

健康・快適



9. 代表者によるコメント

エコアクション21環境経営システムを運用して15年、
『未来のために今できること』



2030年のZEHに係る政策目標を受け、経営課題であった、福岡県初となる、中高層賃貸ZEH-M（ゼッチマンション）が令和6年2月に完成となりました。省エネ性能の引き上げにより、建築コストが上がる事ではありますが、不動産価値の維持・向上につながるという事を理解してもらうため、私たち地場企業がZEHの価値を明示することで、建築主や入居者が将来、分譲でも賃貸でも住み替えの優先条件になるのではと考えております。今後も建築と環境商品を通じ、次世代へつなげるライフスタイルを提案することが、私たちの責務だと考えます。

令和6年度（運用15年）CO2排出量の3大項目、電気・ガソリン・軽油のうち、目標を達成することが出来たのは、ガソリンの使用量のみですが、年間を通じて全項目、ほぼ目標に近い数値で推移できていることから、二酸化炭素排出量の削減に貢献は出来ています。又、例年のコスト削減効果としては、取組み（H22年度）開始より15年間で、売上げ補正前で累計3736万円、補正後は3257万円の効果となっています。又、昨年、完成した自社所有、中高層ZEH賃貸マンションをモデルに受注となった、店舗付9F建てZEH賃貸マンションが令和7年10月に完成となります。当社モデルZEH-Mが完成1ヶ月で満室となり、入居者のZEH賃貸への注目度が高まっていることから、入居者獲得という側面のみならず、健康と環境への取り組み姿勢を示す表れとしても、まさにSDGsのテーマといえます。今後も社員一丸となって知恵を組み合わせ『健康・環境経営』を推進しつつ、目標達成への活動を続けていきます。

宮田建設では『人と自然との共生』をスローガンにSDGs、持続可能な開発目標を理解し、取り組んでおります。「建設」という業務を通じて世界を変えるための17の目標に取り組み、2019年11月に17項目中9つの項目で認定をいただき、2022年5月には16の項目宣言を実施しております。

BELS 評価書	
申請者の連絡先 福岡県北九州市八幡西区則松四丁目3-10 申請者の氏名又は名称 宮田建設株式会社 代表取締役 横井 成昭	
下記の建築物に關して、BELS評価報告書に基づいて評価を行った結果について報告します。 なお、評価結果については、報告を受けた期間にて評価したものであり、それ以降の計画の変更や時間経過などによる変化がないことを保証するものではありません。	
建築物の所在地 福岡県北九州市八幡西区則松1626番 名称 (仮称) 丸尾町マンション 新築工事 建築物に関する基本的事項 階数 地上5階 延べ面積 977.85㎡ 新築竣工時期 (計画の完了済みの場合) 2023年11月下旬 申請対象部分に關する基本的事項 用途 共同住宅 設けられた設備 (※1)	
評価結果 省一次エネルギー消費量基準 評価方法 (※4) 非住宅評価 評価対象 (※3) 新築 (建築後等) 9.55 (2558kWh) 改善済 単位消費量あたりの一次エネルギー消費量 (MJ/m ² ・年) 遮熱 (その他) 336 断熱 (その他) 459 基準値 (その他) 519 基準値 (その他) 682 断熱性能基準 評価対象 非住宅評価 戸別評価 適合 U ₀ =0.50	
特記事項 ■ZEBマーク又はZEHマーク、LEEDエネサード、FOSHマークに關する事項 ZEH-M Ready 再生可能エネルギーを備えた設計一次エネルギー消費量の基準一次エネルギー消費量からの削減率 (※6) 25%削減 再生可能エネルギーを備えた設計一次エネルギー消費量の基準一次エネルギー消費量からの削減率 (※6) 51%削減 (※4) 評価対象部分に關する評価結果は、評価報告書に記載されています。また、評価対象となる部分の削減率(削減率)は「(削減率) × 100」で算出され、評価結果は「削減率」で表示されています。	
評価書交付年月日 2023年5月18日 評価書交付番号 001-56-2023-00414 評価機関名 日本BELS株式会社 評価員氏名 松平 誠	



令和7年6月27日

宮田建設株式会社
横井 成昭